

地震工学会
津波などの突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会
第9回研究委員会 議事録

1. 日 時：2014年4月15日（火）10：00～12：00
2. 場 所：工学院大学（西新宿）25階 2510会議室（建築セミナー室）
3. 出席者：後藤，柳原，山本，荒木，奥村(H)，小山(H)，佐藤，澤田（大森委員代理），末松，高田，仲村，久田，堀，真船，三上(H)，源(H)，村上(H)，山田
4. 資 料：
 - 資料9-1 議事次第
 - 資料9-2 第8回議事録（案）
 - 資料9-3 石巻の避難のシミュレーション（ppt）
 - 資料9-4 都市避難部会報告
 - 資料9-5 津波避難部会報告
（資料9-6, 7 欠番）
 - 資料9-8 本研究委員会の延長について
 - 資料9-9 平成25年度予算執行報告，平成26年度予算案
 - 資料9-10 3/10ワークショップ報告
 - 資料9-11 論文集特集号計画
 - 資料9-12 震災対策展（大阪）併催セミナー
5. 議事内容：
 - 5.1 議事録確認（山本幹事長）
 - ・ 第8回の議事録確認を行った。
 - 5.2 講演「石巻の避難のシミュレーション」
 - ・ 堀委員より石巻の避難のシミュレーションに関する特別講演があった。
 - ・ 現在、東大、ベクトル総研、構造計画研究所でそれぞれシミュレーションを実施中である。
 - ・ 関連する主な質疑応答は以下のとおり。
 - ① 避難手段として自動車利用は考慮されているのか。
→相互干渉として考慮する予定である。
 - ② 群衆や混雑、交差点の影響は考慮されているのか。
→V&Vを実施する人毎の判断で対応可能であれば入れることとなる。ただし通常の交通シミュレーションでは一般には考慮されず、混雑具合は速度を落とすことにより考慮する。また交差点は信号は消えているものとして処理しているが、あまり混雑度が高くないのでパラメータとしてはそれほど効かないものと考えている。
 - ③ 避難開始時間はどのように考慮されているのか。
→大きな事業所（日本製紙等）は15分，一般住民は6分から避難開始とし、適当な間隔をおいて設定している。
 - ④ 人の属性（性別，年齢等）はどのように考慮されているか。
→各社毎の設定である。設定条件により結果がばらつくことが考えられるため、目安を

示す方向で検討する。

5.3 各部会の報告

(1) 都市避難部会（久田部会長）

- ・ 都市避難部会の検討状況、今後の予定に関する報告があった。主な報告事項は以下のとおり。
 - ① 首都直下地震対応特別研究会（仮）が4/16 午前に開催され、具体的な内容や体制について検討される予定である。都合がつく方は是非出席願いたい。
 - 当委員会で積極的に支援・連携を図っていく方針を確認。
 - 地震工学会としてどのようなメッセージを出すか、首都直下地震に対する個々の課題を抽出することまでで、自治体等の個々のオペレーションまで言及することは困難ではないだろうか。
 - ② 地震工学シンポジウムのOSについては具体的内容等が決まり次第、周知する予定である。

(2) 津波避難部会（佐藤部会長）

- ・ 津波避難部会の検討状況、今後の予定に関する報告があった。主な報告事項は以下のとおり。
 - ① 山田・石巻ヒアリング調査結果については60～80%程度アーカイブ化が完了。未提出者に最終確認を行い、アーカイブ化作業は収束させる。
 - 原票が収集できないデータは信頼性の観点からDBより排除すべき。近々に提出される予定のものを除き、アーカイブ化作業を収束させる方針でよい。
 - ② 今後、データ公開方法、中土佐町への報告内容・方法を部会にて検討予定。
 - 震災調査報告書は本部会のOUTPUTとして考えてよい。

(3) 国際部会（村上部会長、奥村委員）

- ・ 国際部会の検討状況、今後の予定、チリ津波の避難状況に関する報告があった。主な報告事項は以下のとおり。
 - ① GW明けに部会開催し、今後の予定を協議する予定である。
 - ② チリ津波では約90万人が避難し死者6名、津波は約20分で到達した。ただし避難者数は沿岸全域の数であり、イキケでは避難していない住民も多くいたとの情報もある。来週現地ヒアリング、アンケート調査を予定している。
 - 発生時間は夜8時であり、多くの住民が就寝前で在宅していた。
 - 日本とチリで避難に関する考え方が異なるようだ。

5.4 本研究会の延長について（後藤委員長）

- ・ 研究会の2年間延長が決定したとの報告があった。委員長以下幹事団の体制は現状を継続することを確認した。
- ・ 本研究会の会計担当は山本幹事長とすることを確認した。
- ・ 研究会にて実施するシンポジウム等は、事務局方針に従い独立採算制で行う。

5.5 H25 年度会計報告と H26 年度予算案について（山本幹事長）

- ・ H25 会計報告は承認された。
- ・ H26 予算は20万円（前年度比△10万円）である。現時点では全体予算としてプールした予算としている。各部会で必要経費が明らかとなった時点で委員会審議（メール）を行い、予算案を確定させる方針とする。なお、各部会からの必要経費はできるだけ早く報告するよう依頼があった。
- ・ 事務局より使用する経費は配分予算の90%程度とするよう依頼があったことが報告された。

5.6 3/10WS 報告（仲村委員）

- ・ WS 開催にあたって会場設営等に尽力頂いた久田委員、久保委員に御礼があった。
- ・ 交流会を含め、予算内に収まったことが報告された。

5.7 論文特集号（柳原副委員長）

- ・ 公募論文については、ある程度目途をつけ依頼することを確認した。
- ・ 津波避難部会で実施した山田町や石巻市の詳細な調査結果に関する論文を投稿した方がよいのではないかとの意見があった。
- ・ 地震工学シンポジウムの OS とほぼスケジュールが同じであるので、投稿した論文を掲載することもあるのではないか。
→二重投稿にあたらぬか確認した上で、検討する。

5.8 震災対策技術展（小山委員）

- ・ 関西圏の委員で準備・運営にあたるため、スタッフが限られている。できる限り協力頂きたいとの依頼があった。
→後藤委員長、三上委員は参加予定であり、受付は震災対策展のスタッフが実施する。
- ・ 大阪市担当者との窓口は生田委員を窓口とする。
- ・ 震災対策技術展（仙台）は8/7～8/8 開催予定であるが、現時点では特に申込はしていない。申し込むのであれば、横浜や大阪と異なる切り口が必要ではないか。

5.9 地震工学シンポジウムの OS について（後藤委員長、久田委員）

- ・ エントリーは2セッションしている。現時点で採択可否の回答はないが、連絡内容から見ると採択されたと考えてよい。したがって積極的な論文投稿をお願いしたい。
- ・ 特別講演としてチリの研究者にチリ津波について話して頂くことも一つのアイデアである。その場合は村上先生経由でお願いすること、経費の問題も発生する。
- ・ スケジュールが概ね重なるため、特集号と抱き合わせで実施することが望ましいのではないか。
- ・ 次回理事会で OS 関連の新たな話題があれば提供する。

5.6 次回の研究委員会

- ・ 村上先生にチリ津波の報告を依頼する。
- ・ 平成 25 年 5 月末を目途に日程調整する。

以上